

# ひるの星

No. 232

## 目次

バハオラの言葉	.....2
和合	.....3
和合の7本のロウソク	.....4
子供達の巡礼	.....5
沖縄のお話し	.....7
クイズ	.....9
ポップアップ・カード	
づくり	.....10
みんなの絵	.....12
ハロー世界	.....13
点でなぞる絵	.....14
両親のページ	.....15

じんるい とうごう

人類の統合が

しっかりと

かくりつ

かぎ

確立されない限り、

また

そうなるまでは

じんるい あんねい

人類の安寧、

へいおん

その平穏と

あんぜん

安全は

たっせい

達成されない

バハオラ



## 和合

バハオラのこの言葉は、世界の人々の和合が確立されないと戦争や飢え、貧困などの問題

も解決できず、人々が幸せになることができないと私達に教えています。

和合とは自分と体型、肌の色、国や宗教が違う人々ともみんな仲良くすることです。

私達は他の人を背が低すぎ、貧しすぎ、肌の色が濃すぎ、太りすぎ、頭がそれほどよくない

とか、見かけが違いすぎるとみてはいけません。それよりも私達は人の心を見るようにすべ

きです。そして、自分が相手の立場だったらと考えてみるべきです。

肌の色や外見がどれだけ良いか、両親は誰にするか、どの国に生まれるかなど、誰にも選ぶこと

ができません。これらは神様が定めてくださったことです。ですから神様が定められた違いで他の人の

気持ちを傷つけては決していけないのです。私達に今の定めを与えてくださった神様に感謝し、この定め

に満足するのを忘れてはいけません。そして、神様が私達にお与えくださった定めは素晴らしいとい

うことを知り、誰からも自分達が素晴らしい定めにあると思われるようにしなければいけません。

戦争や世界で起こっている悪いことの全てを止めるのは私達しだいです。私達は外見

ではなく、人の内面、心を見ることから始めましょう。



## わごう ほん 和合の7本のろうソク



げんだい ひか かがや じだい ひかり せいぎ わごう  
現代は光り輝く時代でアブドル・バハは光の世紀と呼ばれました。あたかも和合が

ほん つぎ つぎ あらわ せかい あか て せかい  
7本のろうソクのように次から次へと現れて世界を明るく照らし、世界が一つになる

せつめい よ あ ぜん かがや ひ のぼ み し い  
と説明されました。それは夜明けにさん然と輝く日が昇るのを観るようだと師は言われました。

ほんめ せいじ せかい わごう ちが くに せいじ か かんきょうもんだい  
1本目のろうソクでは政治の世界が和合します。違う国の政治家たちが環境問題を

せかいてき かいけつ せかい せいじか きょうりよく あ  
世界的に解決しようとするように世界の政治家が協力し合うようになります。

ほんめ かんが がた わごう せかいじゅう ひとびと じぶん くに かんが  
2本目では考え方が和合します。世界中の人々が自分の国だけを考えるのではなく

せかい かんが  
世界が一つであると考えるようになります。

ほんめ じゅう わごう すべ ひとびと だんじょ はだ ちが きょういく しぼ  
3本目では自由で和合します。全ての人々が、男女、肌の違い、教育のあるなしに縛

びょうどう あつか  
られないで平等に扱われるようになります。

ほんめ しゅうきょう わごう せかいじゅう ひとびと すべ しゅうきょう かみさま おし  
4本目では宗教が和合します。世界中の人々が全ての宗教は一つの神様から教え

すべ ちから かみさま さず し  
られており、全ての力は一つの神様から授かっていることを知るようになります。

ほんめ せかい くに ひと せかいしゅみん  
5本目では世界が一つの国になり、すべての人が世界市民となります。

ほんめ じんしゅ わごう ひとびと じんるい じんしゅ き  
6本目では人種が和合します。人々が人類という一つの人種しかいないと気づくよう  
になります。

ほんめ ことば わごう きょうつう ことば せかいじゅう ひとびと たが  
7本目では言葉が和合します。一つの共通の言葉によって世界中の人々がお互いに

はな でき ひとびと あいだ かべ  
話しあうことが出来、人々の間の壁がなくなります。

「これらのことすべては神の王国の御力の援助で必ず実現されるでしょう。」とアブ

い とも あたら せかい う  
ドル・バハは言われました。これらのろうソクがすべて灯されるとき、新しい世界が生まれます。



# 子ども達の巡礼

か が み な お こ  
加賀美直子



2006年12月25日から9日間、加賀美 明(9才)、幹(8)、門(6)、

涙(3)の4人は両親、おばあちゃんとイスラエルのハイファに

巡礼に行きました。涙くんは3才だったので、主だった巡礼に参加

できませんでした。それでもバージのバハオラの廟と、ハイファ

のバブの廟を訪ねることができました。

明ちゃん(10)と幹ちゃん(9)は、正規の巡礼者として、アーカイブという資料館で

貴重な体験をしました。そこでバハオラの写真と肖像画それとバブの肖像画に出会った

のが一番印象深かったようです。幹ちゃんは、その感動を言葉で言いつくすことができ

なくて、「わあー。」といった気持ちになったようです。そして、「この写真だけではバハ

オラは表しきれないんだろうな」と言いました。聖地のお庭のすばらしさに、「さすがシ

ョーギ・エフェンディだね。バハオラとアブドル・バハに従って、これほどの庭を造るな

んて・・・。」と感心していました。庭の一本一本の木でさえ計画されて植えられている

ことを聞いて、「天国みたいだね。」と、門くんが感心して言いました。

4人は、聖なる廟に入ってお祈りするとき、その中の雰囲気におどろかされました。

一体どうしたら良いのか最初はとまどっていました。他の人が正座して床とか聖なる敷

居におでこをつけてお祈りするのをみて、自分達も教わりながらお祈りしていました。

かなり緊張したようです。涙くんもバハオラの廟に入ってお祈りするとき、まずひざま

づきました。頭を床につけてお祈りしてから、聖なる敷居にいけるよう自分の順番を

待っていました。自分の番になったとき、畏敬のなかにも穏やかさがあるのか、ぐっす

りと眠ねむってしまいました。家いえに帰かえってから、「さあ、バハオラの方ほうを向むいて、お祈いのりを  
しましとくもんょう」というと、特とくに門もんくんと涙るいくんは、ひざまづいてお祈いのりするようになりま  
した。

最大さいだいの牢獄ろうごくアッカの町まちでは、バハオラや信者しんじゃが苦しめられた話はなしを一生懸命いっしょうけんめい聞いて  
質しつもん問もんしていました。そのおかげか、夜明けよあけを告つげる人々ひとびとや殉教者じゆんきょうしやの話はなしにもっと興きょうみ味もを持  
つようになったと感かんじられます。

彼らかれにとって、もう一つ貴重ひと きちような体たい験けんは、巡礼じゆんれいに来た人たちきと友ひと達だちになったことです。

巡礼じゆんれいのグループには、4人と同年にん どうねんの子どもはいませんでした。でもガイドの方かたや数人すうにんの

大人おとながとても親したしくしてくれました。バージの巡礼者じゆんれいしやのため

の建物たてもでは、言葉ことばの通つうじない子どもたちこと折おり紙がみをしたり、

鬼おにごっこやふざけっこをしたりして、仲良なかよくなりました。

世界せかい中に自分じぶんの友とも達だちができたように嬉うれしくしていました。

4人と一緒にん いっしょに巡礼じゆんれいに行ったおばあちゃんいは、バハイのことを

よく知しりませんでした。でも、おばあちゃんは聖地せいちの美うつくしさと人々ひとびとに感かん動どうしていました。

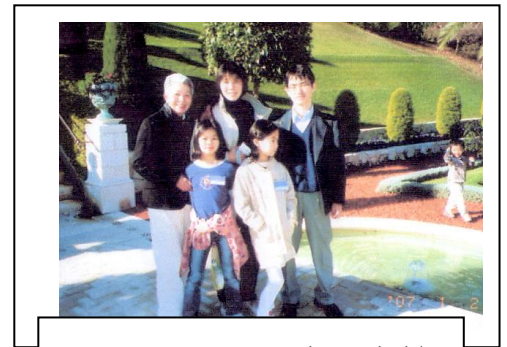
夜よる,おばあちゃんにんは4人いののお祈みみりにじっと耳かたむを傾かたむけていました。シアチャールのお祈いのりを

し始めたとき、感かん動どうして一緒いっしょに唱となえ始めはじめました。今いまでも一緒いっしょにお祈いのりするときは、その

お祈いのりを口くちずさみます。巡礼じゆんれいのバッジは今いまではみんなの宝たからもの物ものになっています。小ちいさいと

きに聖地せいちの精せいしん神しんにふれることができたことが、これから4人にんの精せいしん神しん的てき成せい長ちようにつながるよ

うにと心こころから願ねがっています。



おばあちゃんと一緒いっしょの写しゃ真しん



## おきなわ 沖繩のお話し

### お母さんの目は何の色か？

これは、お父さんが日本人でお母さんがアメリカ人の5人の小っちゃな子供のお話です。この家族はちょうど一年前にグアムから沖繩に引越してきたばかりでした。ある日、末っ子のアニサが母の日のために描いた絵を持って幼稚園から帰ってきました。

お母さんはアップル・パイにする、りんごを切っているところでした。他の子ども達はそれを眺めながらテーブルを囲んで座っていました。アニサはお母さんにその絵を誇らしげに見せようとして、「お母さん、見て。これ私が描いたお母さんの絵よ。」お母さんはその絵を見てにっこりしました。一番年上のモナが笑って言いました。「バカねえ、アニサは。お母さんは髪も目も黒くないのよ。髪は明るい茶色で、目も青なんだから。これは一体誰なのよ。」アニサは不服そうに口を「へ」の字に曲げて今にも

泣き出しそうになりました。「先生は髪と目は黒に塗りなさいと言われたのよ。だからそうしたのに。」シャラが、じっとその絵を見て言いました。「お母さんは、どうして他のお母さんと違うの？私の友達のお母さんはみんなこの絵と同じようなんだけど。どうしてお母さんはみんなとそんなに違うの？他のお母さんと同じであって欲しいなあ。」すかさず2番目に年上のアスマが言いました。「そうだよ。みんなの気持ちがわかるよ。授業

参観のとき、お母さんが学校に来るのは僕も恥ずかしいんだ。お母さんは本当に目立つん

だよな。英語で話しかけるんだもん。なんか格好つけているようで。」子ども達のこんな話を聞いて、お母さんはちょっと悲しくなってきました。「それじゃ、私<sup>わたし</sup>が人前でみんなに日本語だけで話しかけたらどうするの。」とお母さんが言いました。すると「だめだよ。」とリアズが口をはさみました。「だってお母さんの日本語は変だし、間違っているんだもん。しゃべらないほうがいいよ。それが一番だよ。」これを聞いてお母さんは笑ってしまいました。それは日本語が上手でないのは自分でわかっていたからです。「それじゃ、みんな聞いて。ここでみんなに学んで欲しい教訓があるのよ。お母さんが違うのはちつとも変じやないと思うの。だってお母さんのふるさとアメリカには、お母さんと同じような人がたくさんいるんだもの。姿<sup>すがた</sup>だって言葉<sup>ことば</sup>だってお母さんのことを誰も変だと思わないんだから。世界は違っている人でいっぱいなのよ。私達はみんなどこかよく似ていて、どこか違っていて当たり前なんだから。みんなと違うからといって誰も他の人を傷つけてはいけないのよ。どんな態度<sup>たいど</sup>でいるかが一番大事なことなのよ。よその人に親切でやさしく、愛することが大事なの。そうするには、よその人を見るとき、外見ではなくその人の心<sup>こころ</sup>を見るようにすることなの。そして、その人の良い点を見るようにしなさい。私達誰もががされたいようにね。」そう言ってお母さんはアニサの絵を冷蔵庫の面に飾りました。するとアニサは急いでクレヨンを持ってきて、もう一枚絵を描きました。今度は茶色の髪と青い目にしました。そしてお母さんに渡して彼女は言いました。「お母さん、ハイ、これ。今度は本当のお母さんだよ。本当のお母さんになってよかった。」他の子ども達も喜んで、みんなでお母さんに抱きつきました。めでたし、めでたし。





## クイズ

1. 世界が平和になるには何が必要ですか？

---

2. 人の外見ではなく人の何を見るべきですか？ (2つ)

---

3. 和合のロウソクがいくつあるとアブドル・バハは、言われていますか？

---

4. 全部のロウソクがついたら、何がおこりますか？

---

5. 明、幹、門、涙の4人の子どもたちはどこへいきましたか？

---

6. どなたの写真を4人は見ましたか？

---

7. 5人の沖縄の子ども達はなぜお母さんがかれらの学校に来るのが恥ずかしかったのでしょうか？

---

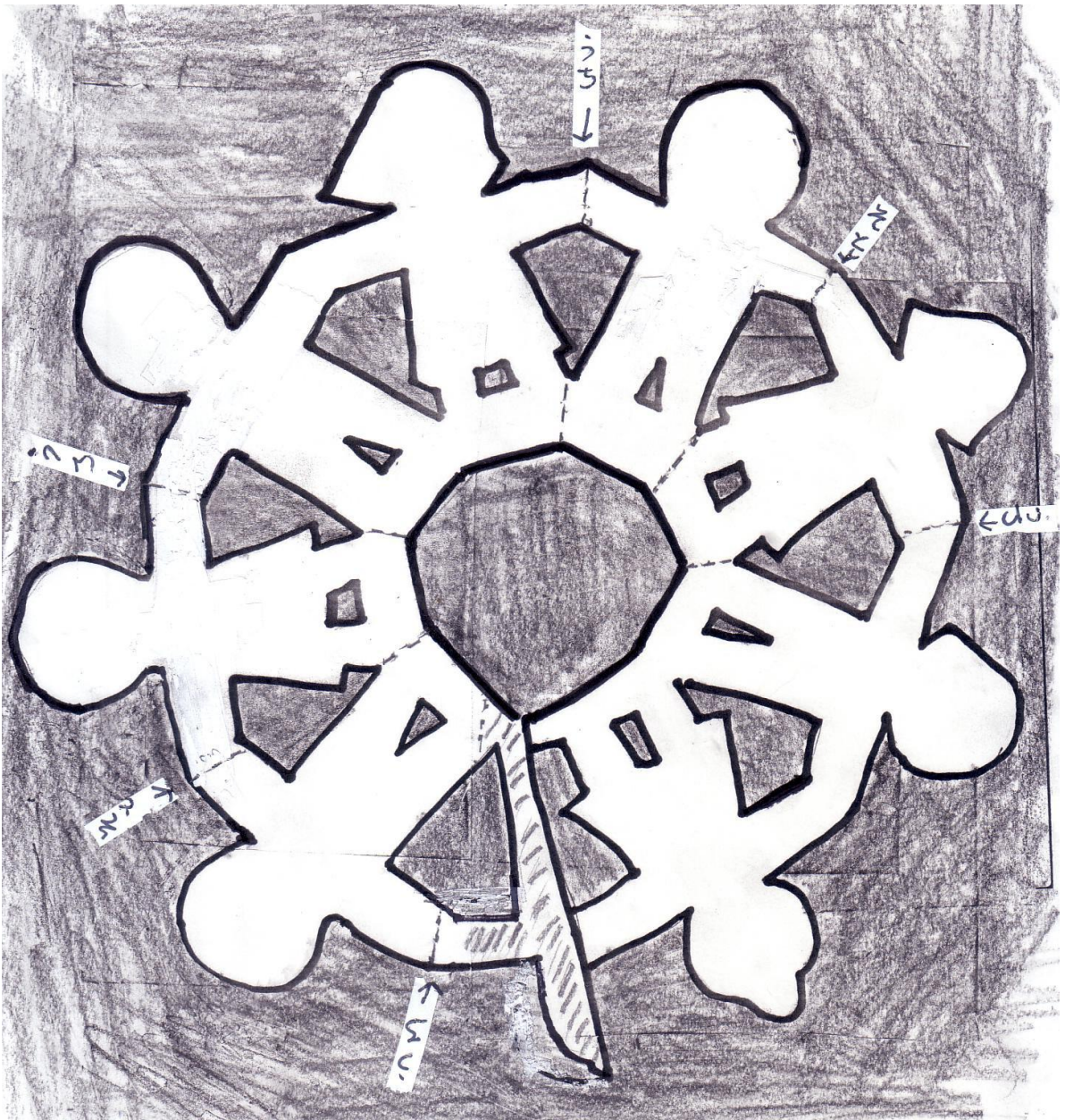
どうだった？ 全部できましたか？.....答えは15ページです。



## 「人類は一つ」の ポップアップ・カードの作り方

- 黒い線にそって切る。
  - 子ども達のニコニコ顔を描く。
  - 肌の色、髪の毛、目、洋服をいろいろの色で前と後ろを塗る。つないでいる手を描くのを忘れないでね。
  - 斜線の部分にのりをつけて、となりの女の子の後ろに貼るとサークルが出来る。
  - 手のところの点線を内と外に折ると半分に折れる。
  - 色画用紙を半分に折って、折り目のついていない二人の子供の後ろに長いセロテープの、半分を子供の後ろに、半分は画用紙に貼って、子ども達が立つようにする。
- 「人類は一つ」のポップアップ・カードが出来ました。お友達にあげましょう。

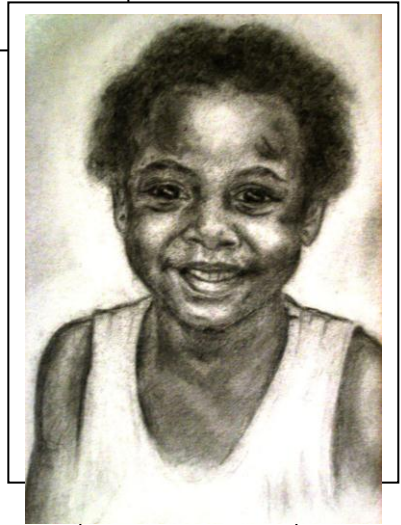




みんなの絵



イランの子どもの絵



の絵



みなさんのこのような絵を送ってください。次回に載せたいと思います。

# ハロー<sup>せかい</sup>世界！

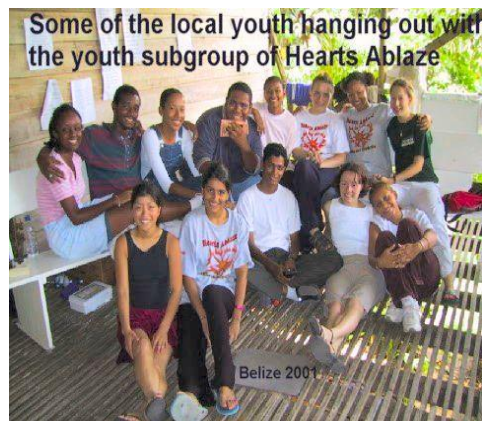
山口サマスクール



タイの子ども 学校にて



ハワイの子ども  
ボランティア



ベリーズ(メキシコのおと  
なりの国)のユース



ソロモン諸島の子ども  
ノールーズにて

ねりえ

a から z まで

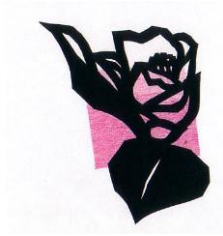
アルファベットの順に点を結ぶと

何ができるでしょう？



なんじら みないっぼん き かじつ ひと えだ は たが さいこう あい  
[汝等は皆一本の樹の果実であり、一つの枝の葉である。互いに最高の愛と

ちょうわ しんあい ゆうじょう も ふるま  
調和、親愛と友情を持って振舞え。]



## 両親のページ

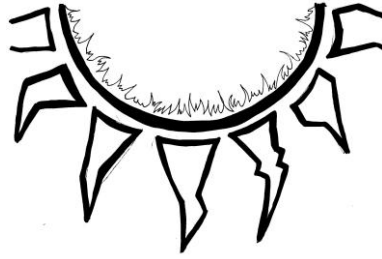
私達、大人は次の世代を担う子ども達を指導する重大な責任があります。私達が子ども時代にあった偏見はなくさなければいけません。人種、国、言葉、宗教、教育、社会的地位などの違いによる偏見です。私達は、自分のふとした不注意でこれらの偏見を子ども達に植え付けてしまいがちです。私達は人をその背景で判断するのではなくて、まず個人を見るように子ども達を指導しなければなりません。それは神の鏡である個々の心を見るようにすることです。さらに澄んだ神の鏡を見るのに、見る目も曇らせないようにすることです。「見知らぬ人に出会えば家族のように愛を示せよ。忠実なる友に示すようにやさしき愛を示せよ。」とアブドル・バハが教えられています。

会う人出会う人にこのことを伝えましょう。言葉だけではなく振る舞いでも子ども達にこの愛を示しましょう。「あなたの道で出会う人全てに対して、あなたの心を優しい愛で燃えたたせなさい。」アブドル・バハ



### 9 ペジューの答え

1. 人類の和合
  2. 心と良い点
  3. 7本
  4. 新しい世界が生まれます
  5. 巡礼で
- イスラエルのハイファ 6. バハオラ 7. お母さんが外国人だから



皆さんのお子様のバハイ活動でみんなに役に立つ  
いいお話、又は写真などがあれば、教えてください。

[hirahara@rainbow.plala.or.jp](mailto:hirahara@rainbow.plala.or.jp) に送ってください。

## 「ひるの星」

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 7 丁目 2 番 1 3 号

電話：03-3209-7521 FAX：03-3204-0773

ゴードラト（威力）164 年 BE 2008 年 1 月発行  
No. 232

ひるの星委員会：、マクティア・理恵、平原静志、  
平原ルアナ

協力：鳥部まゆみ、酒見美千代、平原ルアナ、加賀美直子

和訳：ブレイ和子、マクティア・理恵、平原静志

写真：柴田ゆき、マクティア・理恵、平原ルアナ、ライアン・エヴァン、サンダース・  
ブルース、加賀美直子、カーティス・ラリー、アレン・スーザン、新垣千賀子  
衛：福浜弘明、小川純子、石川則子、イランの子ども、ヘインズワース加代子

コンピュータープログラマー：メイヤー・ニコラス

監修：平野祐一